

2009年

5月15日（金曜日） - 現場の中に全てがある！ 「中小企業金融の意見交換会」 -

本日、近畿財務局と近畿経済産業局の皆さんが合同で「中小企業金融に関する意見交換会」を開催していただきました。本市からも様々な業種の事業者の皆さんが参加をされて、直面する大変厳しい状況を背景に真剣な意見要望、意見交換がなされ、意義深さとともに課題解決に向け今後のフォローの大切さを強く感じました。主催の両局の皆さん、京都府行政の皆さんに深い感謝を申し上げます。

現下の厳しい経済状況の中、まだまだ不十分ですが市役所もできる限りの取組みに尽くしておりますが、京都府も全国の中でも傑出した投資的予算を編成・執行いただくとともに、国におかれても、昨年度は一次、二次の補正予算、本年度の本予算、補正予算と、矢継ぎ早に大型経済対策を打ち出していただいております、地方経済にとってもありがたいかぎりです。

その上で、今後とも留意をしなければならないのは、現在、全国の景況としては分野によっては底を打つような動きも出てきているようですが、産業連関の構造の中で好循環の波及が及んでいく流れの中で地方産業が一番最後の方にならざるをえない面があるわけなので、政策的手当てを考えていく上で、たえず置きざりにされているところはないかどうかという目線を常に大切にさせていただきたいと思っておりますし、また、いずれ将来、景況が全国平均で戻っても、地域や事業者間で強弱の格差が新たに発生しているかどうか、その程度はどうかなどの実態についても注目を忘れないでいただきたいと思っています。

そして、予算や制度は十分なものへと近づけていただいても、その具体的な運用において制度の趣旨を踏まえた運用が現場で丁寧になされているのか、掛け声だおれに終わっていないかということをチェックしていくことがとても重要です。いい制度、予算をつくっていただいても、実際の運用がそれを使っていただく事業者の皆さんの実態や願いから離れていては意味がありません。大切なことは、現場！。現場の中に全てがあります。現場の声を大事に、現場の営みの中で真に活かされる制度運用をいただいてこそ、制度・予算の存在意義がある。

地域経済を汗まみれになって懸命に支えていただいている一番大切な現場は、実は（地理的構造、産業構造など様々な意味で）遠いところや、後ろで支えていて陰になっているので気づきにくいところにこそあり、そして、その声が真剣な叫びであっても、そんな風に遠かったり、気づきにくい現場だと、そのまま放っておかれるとそのぶん届きにくくなるわけですが、そのぶん、逆に近づく努力をしていただいて、どうか現場を支える真剣な声に耳を傾ける姿勢をますます大切にさせていただきたいと思っております。その意味でも、今日の意見交換会は、今後のフォローの大切さを痛感したこととは別に、真

剣な声を届ける場をいただいたこと自体、とても意義深いことであったと深く感謝しておりますし、我々市町村行政もそんな姿勢と取組みの大切さを改めて深く感じ入りました。